

# 民俗資料の価値に理解

## 弘大でフォーラム 保存や活用法探る

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター（李永俊センター長）は24日、同大学で「市民と文化財フォーラム『博物館的想像力 渋沢敬三と今和次郎 民具学・考現学と青森県』」を開催した。「普通の人々の暮らしや文化、歴史を

伝える民俗資料について関係者から話題提供が行われ、訪れた市民らが資料の保存や活用への理解を深めた。フォーラムは、見慣れた風景や生活道具の魅力を新たな視点から見直す機会を提供しようとして実施された。基調講演では、天理

大学文学部の丸山泰明准教授が「渋沢敬三と今和次郎―博物館的想像力の近代と青森」と題し、民具学の提唱者である渋沢敬三と弘前市出身で考現学を唱えた今和次郎について紹介。丸山准教授は「民具には地域の文化や社会を解き明かす価値

がある。処分するとそれらが失われてしまう可能性がある」と訴えた。フォーラムはこの後、昨年廃館となった小川原湖民俗博物館（三沢市）の旧蔵資料

を取り上げて話題提供が行われた。関係者らはこれらの資料が廃棄処分される危機にあるとして、市民らとともに民俗資料の保存や活用方法などを探った。（田中康貴）



講演する丸山准教授